

【家庭数】

横浜市立永谷小学校

令和6年5月29日



学校だより
ながや

「もっと家族で団らんしたい気分になった」

校長 神田 敏之

6年生の家庭科で、「自分の時間の使い方を工夫して、団らんの時間や家庭の仕事を分担して行う時間を作ってみよう」というめあてで計画したことを、5日間実践したふりかえりです。上の言葉の前には、次のように書かれていました。「団らんは、家族と話せてよかった。これからは、家の人に言われる前に手伝いを自分からやるようにする。せんとくものたたみ以外にもできる手伝いを見つけて計画を立ててがんばる」とありました。他の子どものふりかえりも紹介します。

○みんなのお皿を洗ってあげることで、親の家事が減るから毎日やりたいと思った。

○親が家事をしているのを実際やってみると大変で、それを少しでも楽にしたいからこれからも手伝いを続けたい。

○毎日皿洗いをするのは少し時間がかかって大変だったが、終わった後の達成感が大きいので継続できた。また家族みんなで何かをするのは楽しいんだなということに気づいた。

子どものふりかえりに感想を書いていたいた保護者の言葉です。

・自分からやってくれてとても助かります。毎日の生活のことなので笑顔で過ごしていきたいですね。

子どもたちの様子についてホームページを活用してお知らせします。月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。

学校ホームページ
QRコード



- ・家のことをしてくれて自分のできることの幅が増えてよりできる選択肢が増えたととらえられると良いと思います。大変だけじゃなく自分にもメリットがあると感じてほしいからです。
- ・子どもが自立できるように子どもに教えていくことの必要性は自覚しているものの、時間があったら親がついスマホを触ってしまうなどしているの、その時間を子どもに家の仕事を教える時間に使えばいいのだと気付きました。

誰にとっても1日は24時間です。自分にとって大切なこと、優先したいことに時間を使いたいものです。見なくてもよいテレビや動画をだらだらとみてしまうなど、一日をふりかえってみると無駄と思える時間があります。子どもは自覚できていないので、大人がそれを指摘してもなかなか改善につながりません。

今回6年生は、自分の生活を見直して、課題を挙げ、改善をしようとしています。一回の活動ですぐに生活は改善できないことでしょう。うまくいかないことは修正をして、次につなげてほしいと思っています。

夏休みの前には、「本当に自分のしたいことに時間を使う。しなければいけないことを先にする。」ということ朝会で話していきます。